

(様式第7号)

おおさかグローバル奨学金留学報告書

年 月 日

留学期間	平成 26 年 1 月 27 日 ~ 27 年 1 月 中旬			
留学先	国名	カナダ	学校名	Bracebridge and Muskoka Lakes Secondary School 後に IE. Weldon Secondary school
専攻	主に英語の習得を目的とした留学			

留学中の生活、留学の成果、留学で得たことをどのように活かすか、これから留学する人へのアドバイス等について2000字以上で記入してください。

1月28日の夕方に、トロント・ピアソン国際空港に到着してから、留学受け入れ団体がブッキングしていたタクシーでホストファミリーの家に向かった。季節は冬、さらに所はカナダなので空港を出た瞬間から一面雪だらけだった。およそ2時間半かけてホストファミリー宅に到着した。コーディネーター曰く、当の留学受け入れ団体は「田舎での留学プログラム」を強みとしているそうで、その理由は田舎のほうが英語圏外からの移民が少なく、純粋な英語に触れる機会が多いからとのことだった。

本校から別団体の監督のもと留学プログラムに参加している生徒も多いのだが、そのうち数名はスペインや中国・韓国から移民したホストファミリーにステイすることになり、その独特のアクセントに戸惑ったり家族間で英語以外で会話されたりと確かに苦戦しているようだ。それゆえ私のコーディネーターとその留学受け入れ団体の言うことは大変理に適っているだろう。

多くの留学希望者の皆さんは、都会での留学を望まれると思うが、こういう事情も考慮して留学先は吟味してほしい。もちろん初めから様々なアクセントの英語に触れていくというのも魅力的ではある。実際、英語をコミュニケーションのツールとして使っていく上で、純粋な英語よりも何かしらアクセントのある英語のほうが接する機会も多いだろうし、特定の話者に限定されるスラングなどもあるからだ。しかし初めは純粋な英語にだけの絞るのも個人的には良いと思う。このことは他の英語以外の語学留学においても参考にできるだろう。

ホストファミリー宅に到着したその翌日に現地校の事務室に行き編入手続きを済ませた。科目はESL（必修）・関数・ボーカルシンギング・カナダ史を選択した。数日後にはセメスターが始まり、初の登校を迎えた。関数が思いの外、難しかったので途中で生物に変更したが、より難しかったことは言うまでもない。

日本の小中高等学校に来る外国からの留学生はおおよそその受け入れ学校からもてなされ、生徒からもチャホヤされるが、様々な人種がいるカナダではそもそも留学生であるとすら気づかれないことも多いし、日本のそれほどはチャホヤされない。これは本プログラムがいわゆる私費留学という分類に入るからなのかもしれない。学校同士の直接的な交換留学なら事情がおそらく変わるのだろう。

とは言えカナダ(もしかすると田舎に限定されるかもしれないが)の人々は気さくでフレンドリーな人が多いので、助けを求めれば助けてくれるし、基本的に先生や生徒も含めて皆、留学生であることを知るとそれを考慮してくれる。このことは英語留学を希望する人にカナダをおすすめしたい理由の一つだ。

しかしやはり友達作りには苦戦する。決してクラスメートから拒絶されたりだとかはなかったが、「来る者は拒まず、来らざる者は迎えず」といった感じなのでこちらから積極的に関わろうとしなければならない。正直私の苦手とする分野である。なので初めの二ヶ月一杯はほぼ毎日、同じく本校からこの現地校に留学している女の子とランチタイムを過ごした。

他の現地校に通う友人から聞いた話になるが、自分以外に留学生の多い高校では友達作りはそこまで困らないが、日本以外からの留学生は総じて英語力が高いのでそれがスタンダードレベルになるのでなかなか辛いものがあったそう(友達作りに困らないと言ってもそれは留学生同士でつるむということを意味するが...)。私の所には留学生は自分を含めて日本人が3人とスイス人が1人しかいなかった。留学生が少ないのも田舎だからかもしれない。余談ながらそのスイス人はドイツ語を母語として、イタリア語、フランス語、デンマーク語、オランダ語、第六言語として英語を完璧に話せた。この様な語学の猛者に出会うのも刺激を受けて良い経験になった。

「長期留学は初めの3ヶ月が経つと楽になる」とは本校の先生や、以前、同じく留学した上級生が口を揃えて言うことだが、本当にそのとおりだと思う。

3ヶ月も経てばかなりのレベルで耳が英語になれるし、言いたいことを英語で言うことに変な抵抗が完全に消え去る。また周りの生徒も留学生であることを認知し始めるし、言うなれば、こちら慣れるしむこうもこちらに慣れるといった感じだ。

それくらいのタイミングで、日本人3人で「日本文化クラブ」なるものをESLの担任を顧問として創部した。自分の想像する以上に好評を博した。彼らの名前を漢字に直してその書き方を教えたり、折り紙の折り方を教えたり、日本のお菓子を食べたりと自分でも楽しかった。日本のお菓子は外国の人には大変ウケが良いので参考にしてほしい。おすすめは、フルーティーな味のソフトキャンディーだ。

また今のところ最大の思い出は、ボーカルシンギングのクラスで参加した小さなコンサートだろう。自分は音楽が好きな人間なので非常に楽しかった。カナダの高校は完全に科目選択性なので普通の公立高校でも日本の音楽専門高校のようなカリキュラムになりうる。そのためか、非常に音楽に秀でた人が私の学校には多かった。なのでコンサート自体もフィリピンでの災害支援のために生徒主体で開催されたものだったが非常にレベルが高いパフォーマンスばかりで感動した。またボーカルシンギングクラスの演奏では私が冒頭のソロを任されたのでとても良い経験になった。

という具合に、やっとのことでカナダ生活に慣れ始めていた私だが、ホストファミリーとあまり馬が合わなかったので、受け入れ団体と相談・協議を重ねた結果、ホストチェンジという結果に落ち着いた。その際に次期セメスターからの転校を余儀なくされたが、知っている人が全くいない新しい学校というのも良い刺激になるだろう。現在は農場・牧場に囲まれた所に住んでいる。ほのぼのとしていて良い所だ。

留学するにあたってホームステイはポピュラーな選択肢だと思う。家庭での生活でも英語に触れる機会が増えるし、その留学先の文化を学び異なる価値観を知ろうとする上では最良の滞在方法だろう。しかしやはり、人間が、さらに意地悪に言えば他人が、さらに意地汚く言えば全く異なる文化の人間が、家庭という密接したコミュニティーに混在することになるのだから、軋轢が全くないなんていうことはありえない。人間には合う合わないが必ずある。それも家庭生活を共にするとすると普段なら他愛もないことがとても息苦しかったりする。ホームステイでの留学を考えている方には、ホストファミリーも人間だし、完璧なファミリーなんていないということを、夢を壊すようだが肝に銘じてほしい。

ただそういったことを含めて留学なのだと思う。楽しいことばかりではない。辛いこともある。しかし留学すべてを通して得た経験は、そんな辛さは大きく上回るほどの成果を収めるだろう。事実、自画自賛にはなるが今のところ自分は大きく成長したと思う。自分の意見をはっきり言えるようになったし、いい意味で他人の目を気にしなくなったと思う。留学前は母に任せていた家事も自分でこなせるようになった。残りの六ヶ月、自身の更なる成長を期待して、邁進していきたい。9月からの新学期が楽しみで待ち遠しい。

-乱文失礼しました-

